

上田聖子さん

(うえだ・せいこ)

昭和49年3月、都留市小野生まれ。
子育てサークル「こぐまクラブ」代表。
まちづくりなどにも興味があり、現在「きらめき女性塾」メンバーとしても活躍中。

—上田さんは、都留市のご出身ですか？

はい。生まれも育ちも都留です。結婚を機に富士吉田市や富士河口湖町に住んでいたこともありましたが、大学も都留文科大学ですし、今も都留市在住の生粋の都留人です(笑)。

—では、広報との関わりで何かあればお聞きしたいんですが…。今は広報は読めますか？

はい。小学校のころ、取材で写真撮られた覚えがあります。それから、今、地域の情報は、ほとんど広報から得ています。わたしは「こぐまクラブ」という子育てサークルをやっているんですが、その中でも広報を読んでいるいろんな講座などに参加しているお母さん方も多いですよ。

—そうですか。ありがとうございます。その「こぐまクラブ」は図書館ボランティアとして毎月広報で

■「こぐまクラブ」の活動のようす。



も紹介させていただいています。どういった経緯でスタートしたんですか？

子どもを産んで富士河口湖町に住んでいたころ、子育てサークルに参加していたんですね。私は都留から初めて出たばかりで、子育てに対していろいろと悩みもありました。そういったことも、サークルの中でお母さん同士で話をすることでいろいろと助かった部分があったんですね。それで、非常に「子育て」が楽しかったんです。そして、都留に戻ってきたらそういったサークルがほとんどないことに気づきました。仲の良いお母さん同士でそんな話をしていた、「じゃあ、作っちゃおう」と。また、土日に活動するのではなく、やっぱり小さい子どもがいるうちは、平日に活動をしたいんです。それ

広報は情報発信と情報収集ができるツールです。



で、読み聞かせなどを通じて今の活動になりました。

—なるほど。いろいろと活発に活動をされているようですね。

読み聞かせだけでなく、いろんなイベントを開催しています。いきいきプラザにある子育て支援担当には、かなり協力をいただいで、助かっています。

—それだけ活発に活動されていると、「こぐまクラブ」以外にも？

ちよつと広報と関係があるんですが、以前広報で「おばあちゃんの知恵袋」的な講座の参加者募集があったんですね。ちゃんちゃんこの作り方講座だったんですが、記事を見て参加したんです。そして、いろんな世代の方が参加していました。もう本当に勉強になりました。実はそのメンバーで今も和裁の会を続けてまして…。会

の名前が「おちゃんこクラブ」っていうんですけどね(笑)。

—広報がきっかけで活動に繋がったんですか。

はい。広報は、「こぐまクラブ」の情報も載せて発信していただいていますし、逆に情報を得るためのものでもあるんです。

—なるほど。では、今後の広報に向けてなにかありますか？

地域のきめ細やかな情報を提供してほしいと思います。そうすれば、新しい活動も始まるかも知れません。また、すでに市民活動をしている方々の情報なども、積極的に取り上げて欲しいと思います。私自身も今後いろいろな活動に参加したいと思いますので、ぜひいろいろな情報をお願いします。

—貴重なお話を伺いさせていただき、ありがとうございました。

